

第2回 天女サミット

日 時：10月24日（月）10：00～12：30

場 所：アプラたかいし（大ホール）

●オープニングコンサート

- ・元OSK日本歌劇団 桜花昇ぼる

●「天女の日」制定記念パネルディスカッション

- ・コーディネーター 橋爪 紳也（高石市ブランド戦略アドバイザー）
- ・パネリスト 藤井 勇治（滋賀県長浜市長）
三崎 政直（京都府京丹後市長）
石田耕太郎（鳥取県倉吉市長） ※災害のため、欠席
宮脇 正道（鳥取県湯梨浜町長） ※災害のため、欠席
佐喜 眞淳（沖縄県宜野湾市長）
古川 道郎（福島県川俣町長） ※公務のため、欠席
阪口 伸六（高石市長）
- ・SkypeによるICT交流
高石市“羽衣小学校”5年生の皆さん
宜野湾市“はごろも小学校”6年生の皆さん

●エアリアルティシュー「天女の舞」

- ・いくらサーカス

●「天女の日」制定に係る合意書調印式・記念撮影

「天女の日」制定記念パネルディスカッション（要旨）

（橋爪コーディネータ）

- ・全国にある天女伝説の云われやゆかりのある自治体の首長が集まっている。
- ・地方創生が叫ばれる中、地方自治体みずからが熱心に、そして、とてもユニークな地域活性化に取り組まれている積極的な首長さんの集まりということで、私も阪口市長から依頼を受けてから、このサミットを非常に楽しみにしていた。

- ・早速だが、各首長から天女のゆかりやそれを活かした街づくりに触れながら「わがまち」の紹介を順にお願いしたい。時間の都合もあるため、概ね5分程度で。

(高石市長)

- ・市制施行50年を迎える節目に、遠方より起こしいただき、感謝。
- ・それぞれ歴史・伝統のある街の皆さんにご参集いただいた。
- ・川俣町、倉吉市、湯梨浜町は残念だが、地域活性化のためにいろんな交流をしながらも、防災面での協力も強化していきたい。
- ・では、高石市の紹介をする。
- ・百人一首にも詠まれた歌があるほど、かつては素晴らしい海が広がる景勝地だった。
- ・現在の臨海は工業地帯。
- ・羽衣の由来は、浜寺公園にあった三大名松のひとつに“羽衣の松”があった。
- ・そこから、駅の名前、街の地名になった。
- ・昔、高師浜の海水浴場には、浜寺とあわせてひと夏に100万人が訪れた。
- ・4年前には、街の魅力を発信していこうと、羽衣天女をブランドイメージにした。
- ・海水浴場があった時代にも花火をあげており、現在は高石シーサイドフェスティバルという名で花火大会をしている。
- ・また、高師浜線では工場夜景のラッピング列車を走らせている。
- ・日本でも有数の工場夜景という点を活かして、地域活性化をしている。
- ・最後に、羽衣駅では再開発が進んでいる。JRとつながっていることもあり、観光客も含め利用してもらい、この“羽衣天女”をPRしていく。

(長浜市長)

- ・天女サミットは良い提案。阪口市長の情熱とリーダーシップで開催することができたと思う、改めて感謝。
- ・長浜市は、高石市からは車で2時間弱。
- ・日本一雄大な琵琶湖に面した美しい街。
- ・真田丸で大活躍した、石田三成も有名。信義に厚く、親子に忠義を尽くす。

- ・美しい自然も日本一。戦国武将、豊臣秀吉公が最初に作った城が長浜城で、その城下町が長浜。
- ・秀吉ゆかりの長浜曳山まつりは、豪華絢爛な山車の上で10歳未満の子どもが歌舞伎を演じる。400年継承しているこのまつりを世界中に発信したい。
- ・ユネスコ無形文化遺産に登録したく、文化庁と協議してきており、晩秋に登録される。楽しいので、期待してもらいたい。
- ・天女伝説は余呉湖という小さな湖がある里にある。
- ・私よりも詳しい、観光協会の幹部に紹介いただく。

(奥琵琶湖観光協会幹部)

- ・余呉湖は、琵琶湖の北にある小さな湖で、ワカサギ釣りが有名。
- ・菅原道真に関する伝説も多数存在。
- ・「天女がつなぐ家族の絆」として、健康マラソンを実施している。
- ・その他、羽衣ホールという会館があり、紙芝居等をしている。

(京丹後市長)

- ・竜の伝説があり、ドラゴンカヌーが有名。
- ・2020 東京オリパラでカヌー競技のホストタウン。オーストラリア、韓国と交流しようとしている。カヌーの会場としては、手をあげていないが。
- ・人口5万7千人、平成16年に6町が合併し誕生した。
- ・京丹後出身の松本重太郎は、南海電鉄の創始者。その他にも数多くの企業を設立しており、市内でも再評価されている。
- ・交通面では、京都丹後鉄道や高速道路の開通等、大阪からも近くなってきている。
- ・隣には天橋立、日本のベネチアと呼ばれる伊根の舟等、多くの観光地がある。
- ・国定公園が3ヶ所。近年では、山陰海岸から120km程度、鳥取砂丘のあたりまでを地質遺産としてユネスコの正式プログラムと認定されている。
- ・海の景観にもめぐまれている。
- ・特産も多く、こっぺちゃんとしてゆるキャラにもなっている幻の間人蟹をはじめ、

牡蠣、特 A クラスの米、京野菜、桃、ブドウ、梨などがあり、海の幸、山の幸の両方が豊富。

- ・温泉は約 40 の泉源で、宿泊施設は約 200 件。
- ・地酒もあるので一緒に楽しんでもらいたい。
- ・天女にまつわる伝説は峰山町にあり、様々なまつりをしている。
- ・伝説は、比治の里伝説と七夕伝説の 2 つがあり、稲作発祥の地「月の輪田プロジェクト」や、光と噴水をスクリーンにウォータープロジェクションショーをした「フェスタ飛天」などを行っている。
- ・京丹後エリアにゆかりのある 7 人の姫たちをモチーフに、京丹後の素晴らしさを、しなやかさあふれる太鼓の演奏と歌とともに世界へ伝えるため“七姫劇団”を結成。

(宜野湾市長)

- ・宜野湾市にピンとこなくても、普天間飛行場はといえば基地問題でご承知かと思う。
- ・市の面積の約 4 分の 1 をしめる。
- ・ど真ん中に飛行場があるため、どうしても基地を迂回しないといけない。
- ・西側に沖縄コンベンションセンター、海浜公園があり、公園内にトロピカルビーチがある。夏はビーチパーティ、海水浴客で賑わう。今でも泳げるが、つい最近、サメがでたので、昨日まで遊泳禁止になっていた。
- ・野球場もあり、横浜ベイスターズのキャンプ地。
- ・野外劇場では、今週末、小田和正さんがコンサートを行う。
- ・宜野湾の花火は 4 月。JAL プレゼンツによる日本一早い花火大会。
- ・高石市民の皆さんが大勢来てくれると嬉しい。
- ・690 年前、宜野湾に住んでいる男が天女と結婚し、その羽衣を隠した。二人の間にできた子どもが後の琉球王である“さつと王”。最初に中国と貿易をした王様。
- ・羽衣まつりの名物はカチャーシーで約 15 万人が来場する。なお、カチャーシーとは、まぜるという意味。
- ・楽しく衣装を着て、見る祭りから参加する祭りというのがコンセプト。

- ・基地やお祭り、色々な側面をもつのが宜野湾市。賑やかなところだ。

(橋爪コーディネータ)

- ・残念ながら出席がかなわなかった福島県川俣町の古川町長と鳥取県湯梨浜町の宮脇町長からメッセージを頂戴しているので、ここでご紹介する。

(川俣町長代読：司会)

- ・川俣町は、古くから「絹織物の町」として栄え、実は、天女に直接関連する伝説はなく、代わりに「小手姫（おてひめ）様の伝説」というものが伝わっている。この小手姫（おてひめ）様は、今から約1400年前、当時の崇峻（すしゅん）天皇の妃であったが、政争に巻き込まれ、故郷を追われた我が子を探し求めて川俣町に辿り着いた。そして、桑を植え、養蚕を行い、糸を紡ぎ、機織りの技術を伝えたと言われている。
- ・その後、川俣町の絹織物は時代の変化とともに大きな発展を遂げ、現在においても、世界一薄い先染シルク「妖精の羽（フェアリーフェザー）」が2012年ものづくり日本大賞を受賞したほか、有名デザイナーとのコラボレーションを行うなど、伝統と新たな技術を活かしたもので注目を集め続けている。特に、「妖精の羽（フェアリーフェザー）」については、先ほどのオープニングで、桜花昇ぼる（おうかのぼる）さんに身に付けていただいたが、ご覧のように、非常に薄く、軽く、柔らかい生地。
- ・川俣シルクの特長である輝きと繊細さを持ちながら、何も身に付けていないかのような軽さであり、各地の天女伝説にある「天女の羽衣」にも通じるのではないかと考えており、サミットの一員として参加させていただけることを、大変嬉しく思っている。

(橋爪コーディネータ)

- ・続いて、地震の影響で残念ながら御欠席となった湯梨浜町の宮脇町長さんからも急遽、メッセージを頂戴したので、ここでご紹介する。

(湯梨浜町長代読：司会)

- ・ 10月21日に発生した鳥取中部地震対応のため、心待ちにしていた「天女サミット」に参加できず、高石市の皆さま、そして、阪口市長をはじめとする天女にゆかりの市・町長様方にお会いできず、とても残念。
- ・ 湯梨浜町では、平成23年度以降、当地に古くから伝わる「伯耆国（ほうきのくに）の羽衣天女」をモチーフに、魅力にあふれ、多くの天女（女性）が舞い降りる、そんな町をつくるため「天女のふる里づくり」を推進、天女イメージの創出、花と緑の空間整備、ウォーキング・リゾート構想の推進、地域資源を生かしたモノづくりなど、10のプロジェクトを展開してきた。
- ・ その一環で、去年は、倉吉市のご協力も頂きながら、「伯耆国の羽衣天女伝説」を発刊し、今月初めには東郷湖畔に羽衣天女のモニュメントが完成した。
- ・ 今後は、町内の様々な分野で活躍する女性にスポットを当て、積極的な情報発信をすることにより、その産業を強くするとともに、子どもを産み育てやすい環境づくりなどによる、ワークライフバランスの確立等に取り組んでいくつもり。
- ・ この度のサミットは、私ども構成員にとって、とても充実したものになると信じている。
- ・ 分けても「天女の日」の制定は、素晴らしい発想だと思っている。朝、車のエンジンをかけた時、「おはようございます。今日は10月24日天女の日です。」という声が響く、とても素敵なこと。このようなことを発想された阪口市長さん、そして高石市役所の皆さんに心から敬意を表する。
- ・ 終わりに、このサミットが、私たちの絆を深め、将来、大きな果実をもたらすであらうことを念じ、第2回天女サミット開催にあたっての喜びのメッセージとさせていただきます。

(橋爪コーディネータ)

- ・ 地震や津波などの被災時に備えて、お互いが助け合うような体制、防災面における連携について話したい。
- ・ 昨日の朝日新聞の朝刊にも掲載されていたが、一昨日の土曜日、阪口市長は地震で

被害の出た倉吉市と湯梨浜町に、お見舞いと励ましのため、高石市に工場のある（株）銀装様のご協力により準備されたカステラ1200本を、車に乗せて届けられたそうだが。

（高石市長）

- ・本当に大変な状況になった。地震というものは、いつどこで起こるかわからない。
- ・周辺と連携することも大事だが、広域で大規模に起こった場合、余所も大変。
- ・観光などの交流も大切だが、いざというときは防災面での連携が大事。湯梨浜市長、倉吉市長とも現地で話した。

（京丹後市長）

- ・近畿地方だと南海トラフが起きると言われている。阪神淡路大震災のときも日本海側を通る9号線が非常に大きな役割を果たした。しっかりとそのあたりの連携について想定しながらどのような対応ができるか、避難や罹災証明、復興については技術系の職員や福祉系の職員など、幅広く協定を結ぶだけでなく、どういったことをすぐに対応できるか、詳細について協議することが必要だと考える。

（長浜市長）

- ・災害は忘れた頃にやってくるといわれるが、大豪雨や熊本地震をみていると、表現を変えて災害は必ず来る！と、改めてよそ事でないので、万全の体制を整えたい。
- ・「市民1人1人が備えましょう」と、訓練や啓発活動を進めている。行政がしっかりと対応するということは、我々の責務。万が一が起きたときは、判断を間違えると被害が大きくなる。近隣の自治体やゆかりの自治体としっかり連携して、救助支援にあたりたい。
- ・高石市とは距離的に百数十キロ。京丹後市とも百キロ前後、遠距離のところとは、どのように連携していくか。せっかくサミットのメンバー、お互いが助け合うことが大切だと思っているので、よろしく。

（宜野湾市長）

- ・広域的な防災協定は必要。私ども沖縄県は、万が一災害が起こった場合は、よそさ

まの支援が必要になる。常に考えないといけないのは、どのような対応を、中長期的な対応をしていくこと。行政がやる手助け、公助には限りがある。その限りに対して共助や自助がある。

- ・ 共助という部分、市民同士の助け合い、支え合いがある中で、公助の中でサミットを通して防災協定を結ぶ。そして、公助という意味でのお願いをする。被害を受けていない市町から食料、医療、物資を調達できるような仕組みをつくっていく。
- ・ こういうことがこれから必要。早めに協定という形で結べれば、お互いの協力体制ができるだろうし、住民の方々もその認識の中で、しっかりと相互のまちが理解しあえるというようになる。ぜひ、そのような視点の中で協定が結ばれれば、前向きに考えていきたい。

(橋爪コーディネータ)

- ・ 災害時の協定に向けて、各自治体で検討いただければと思う。普段からのネットワークがあればこそ。まずは、普段のつながりが大事。
- ・ さて、それでは天女を活かしたまちづくりについてお話を戻す。
- ・ 高石は高師浜線の活性化、羽衣駅の立体化、ハード事業を進める中でその中で天女のブランディングというアイデアがでてきた。工場地帯があって、柔らかいイメージがないが、ハード整備をするときだからこそ、ソフトなイメージ戦略が必要だという発想に立った。
- ・ 特に、「天女」、女性が活躍する社会、女性の視点にたって地域を考えていこう、そういうことを強調するうえでも、この“羽衣天女”を強く打ち出した。
- ・ 各市町とも、本当にユニークなまちづくりを進めておられるが、自治体共通の課題は、どのように「羽衣天女」というイメージをもっと広く浸透させていくのか。

(宜野湾市長)

- ・ 伝説は伝説として地元の歴史なので大切にすることが、それから先をいかに観光資源化するかが大きなテーマ。
- ・ 大木が有名なところ、タロイモを使った羽衣パイを宜野湾市の特産物のひとつにし

た。観光資源、あるいはそれを商品化することによって、例えば、我々でいえば砂糖。歴史上に実在した、宜野湾市の伝説、ストーリーがあって、どうしてもそこに行きたいなと思えるまちづくりをしないといけないと思う。ただそれは、行政だけではなかなか難しい。民間の力を借りたい。

- ・残念ながら、確たる観光資源としてまだ確立はできていないので、これからはそれを宿題として取り組んでいきたい。

(高石市長)

- ・鉄道の連続立体交差や再開発、ハードのためというのは、ひとつの伝統となっているのは事実。
- ・「天女の日」をやろうと決めたのは職員。自分たちで天女グッズをデザインして、いろいろなものを開発している。天女というものがどんどん広がっているような感じがする。
- ・総合戦略、地方創生、なにで高石を売り出すか。
- ・高石市は、待機児童が0、今すぐ100人入れる。それを売りにして、「子育てするなら高石市」、高石で子どもを産み育てていこうと。
- ・子育てウェルカムステーションというものをつくる。やはり、天女の取り組みというのは女性を大切にしていこう、女性をしっかりと応援していこうという点で広がっている。ハード面ということもあったが、ありとあらゆる場所で色々な広がりを見せている。それがひとつのキーワード。

(橋爪コーディネータ)

- ・ここで今回のサミットにあわせて、面白い企画が用意されている。
- ・高石市に羽衣小学校という学校があることは、本日も来場の多くの皆さんがご存知かと思うが、宜野湾市にも同じ名前の小学校が存在する。
- ・同じ名前の学校同士、これからの交流を深めるきっかけとして、現在、その両方の小学校と、ここアプラたかいしがインターネットでつながっている。高石市の羽衣小学校6年生の皆さんと宜野湾市のはごろも小学校5年生の皆さんです。

(宜野湾市立はごろも小学校)

- ・ 宜野湾市の紹介、羽衣天女伝説の紹介、校歌斉唱

(高石市立羽衣小学校)

- ・ 高石市市の紹介（工場夜景・浜寺公園等）、羽衣天女伝説の紹介、校歌斉唱

(宜野湾市立はごろも小学校⇒高石市立羽衣小学校)

Q. 天下の台所と呼ばれ、食で有名な大阪ですが、美味しいものはありますか？また、たこ焼きやお好み焼きが給食に出ることはありますか？

A. たこ焼き、お好み焼き、串かつ、豚まんなど美味しいものはたくさんあります。給食でお好み焼きが出たことはないけれど、たこ焼きは出たことがあります。

Q. お笑いが有名ですが、普段から漫才をするのですか？また、漫才クラブなどありますか？

A. 日常会話でボケとツッコミになることはよくあります。漫才クラブは羽衣小にはないけれど、他の小学校にあると聞いたことがあります。

(高石市立羽衣小学校⇒宜野湾市立羽衣小学校)

Q. 沖縄は台風がよく来ると思いますが、学校もよく休校になるのですか？

A. 今年は1回、去年は2回休校になっています。休校が多いと、冬休みが短くなってしまう。

Q. 沖縄は海が綺麗ですが、水泳の授業で海に入ることはありますか？

A. はごろも小ではプールがあるので海での授業はありませんが、離島のプールがない学校では海に入ると聞いています。

(橋爪コーディネータ)

- ・ 最後に宜野湾市と高石市の両校のみなさんに質問です。これまでの話を聞いて、大

阪に行ってみたい、沖縄にいてみたいと思った人、手を挙げてください。

(両校児童挙手)

- ・ご協力ありがとうございました。両校の先生方も、ありがとうございました。

(宜野湾市長)

- ・このような交流は、子どもたちの思い出となって将来、身近に考えることにも繋がる。良い機会になった。

(橋爪コーディネータ)

- ・今後は、それぞれの小学校同士で全国的な交流を増やしていければ、子どもたちにとっても良い刺激、良い勉強になると思う。
- ・交流といえば、阪口市長、今月からふるさと納税における謝礼品のラインナップに湯梨浜町の「天女の梨バウム」が加わったとか。

(高石市長)

- ・高石市にふるさと納税いただくと、湯梨浜町の特産品がもらえるようになった。逆に湯梨浜町に納税いただくと、つば市さんの商品を受け取ることができる。

(橋爪コーディネータ)

- ・このサミットにおいても、新しい取組み。お互いの市において、それぞれの商品のPRができ、地元事業者の皆さんも喜んでいるだろう。
- ・最後にひとつお願いする。

(長浜市長)

- ・地方創生の時代、地方ががんばることが国が栄える。お互いに元気で活力あるふるさとづくりを進めていこう。

(京丹後市長)

- ・こういった機会を通して、お互いのまちを知る。
- ・どうしても伝説や伝承は一地域にとどまることが多いので、どう発信するかが重要。
- ・今回の交流を含めて、また、私たちも足下を見直すことも大切ではないかと思う。
- ・これを契機に、市民同士の交流が深まれば、さらに社会の中で大きな意味をもって

くと思うので、これからもよろしく。

(宜野湾市)

- ・こういった機会をとおして、宜野湾市へ足を運んでいただきながら、文化・伝統、あるいは地域の問題課題、あるいは魅力を含めて共有していただければ幸い。
- ・小学校同士の交流もしてもらったが、さらに交流の場を広げていきたい。ぜひ、続きの交流を。

(高石市長)

- ・各市町村、課題をかかえながら一生懸命がんばってる。
- ・市町村が連携することは素晴らしい。これからもよろしく。
- ・次回、第3回は宜野湾でいきたいと思う。

(宜野湾市長)

- ・歓迎できるような体制づくりを整えてから。
- ・カチャーシー大会、すべての市町の方々が参加していただけるなら、お引き受けしたい。できる限りのことをやっていきたい。2018年、次回、宜野湾でお会いしましょう。

(橋爪コーディネータ)

- ・私も是非応援させていただきたいと思っている。
- ・この天女サミットの絆を大切に、今後の相互地域の活性化に役立てて頂きたいと願う。
- ・以上をもちましてパネルディスカッションを終了とさせていただきます。